

no title ～可能性の発見～

自分の人生をつくる！

私も参加
しています。

丸本 卓哉
山口大学長

オープンキャンパスへようこそ！

オープンキャンパスへようこそ！近年、18歳人口の減少に伴って、大学進学を希望する人の大多数が入学できるチャンスが広がりました。また、国立大学が法人化して5年目を迎えますが、いろいろな意味で国公私大学の競争が激しくなっています。そのため、各大学は独自の特徴や長所を社会や受験生に対してアピールするとともに、その内容や実態を出来るだけ公開して、受験生に大学選択のためのチャンスを提供する必要に迫られ「オープンキャンパス」という行事を実施しています。

山口大学では、オープンキャンパスを始めて約3年になりますが、その意義や重要性が受験生や保護者の方々、また高等学校の教育現場における先生方にも理解されるようになり、年々参加者が増加しています。主催する大学側としても各種の工夫をこらして大学の教育や研究内容を興味深く、分かり易く説明できる努力をしています。また、皆さん方の各種の質問や疑問に対しても丁寧に答えることができるように教職員一同、準備をしています。

受験生の皆さんは、大学を選択する基準を何に置いていますか？ 自分の性格や特徴、好き嫌いなど、

学業成績以外の要因がどれ位影響しているのでしょうか？

大学に入ってから4年間あるいは6年間、9年間というのは、その後の人生を決める重要な期間です。大学を卒業あるいは修了して社会人としてのスタートを切るとき、大学生活をどう過ごし、何を身に付けたのかが大切です。あなたが選ぶ大学が、あなたにとって自分の勉強しようとするものを探求できる環境にあるかどうかは、極めて重要だと思いますが、それを判断するのに、オープンキャンパスはうってつけの企画だと思います。受験生の皆さんだけでなく、中学生、高校1～2年生、また保護者の方々もぜひ山口大学を訪ねて、大学の現場を自分の目で確かめていただきたいと願っています。

教育・研究の現場を自分の目や足で確かめると、きっと新たな発見が生じるものと確信しています。

発見し・はぐぐみ・かたちにする 知の広場

山口大学の教育理念は「発見し・はぐぐみ・かたちにする 知の広場」です。在学中に自分を発見し、自分の得意分野や専門性を伸ばしてはぐぐみ、大学人としての教養や人間力を高めて、国際的にも活躍できる力を備えた、社会人として出発できる人材育成を目標としています。

そして、明治維新後の日本近代化に貢献した「長州ファイブ」（伊藤博文『初代総理大臣』、井上馨『初代外務大臣』、井上勝『鉄道行政に貢献』、遠藤謹助『造幣事業に貢献』、山尾庸三『工業近代化・工学教育に貢献』）のチャレンジ精神を山口大学で学び、自分の人生の土台をつかってほしいと願っています。

知の広場への誘い

山口大学を見、聞き、感じ、体験しよう

オープンキャンパスではキャンパス、教育棟、研究棟、7学部独自の企画などをつぶさに観察してください。山口大学のすべてをお見せしたいところですが、残念ながら2日間ですべてを見ることは難しいです。大学とはどういうところか、一般的には知られていない山口大学に触れ、「知」の一端を肌で感じてください。皆さんが本学の特色やキャンパスの魅力をより深く知っていただけるよう、教職員・学生一同心よりお待ちしております。山口大学についていろいろ知りたいことがあれば、遠慮せずに気軽に何でも聞いてください。



夢の実現・自己実現のために

大学はさまざまなことを学ぶ広場です。山口大学では皆さんにさまざまな「知」を提供します。皆さんが自ら主体的に学ぶことを通して、学ぶことの喜び、将来社会人として活躍できるような知識・技能を身につけることができるような授業科目を用意しています。皆さんの夢の実現・自己実現のプロセスの中に山口大学が参画できれば嬉しい限りです。



塚原 正人
教育学生担当副学長

山口大学で学ぶこと

山口大学では多様な社会の要請に応え、社会の変化に柔軟に対応できるような人を育成する教育を心がけています。「発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場」という基本理念のもとに教育方針を明確にし、それに基づいて教育カリキュラム編成を行っています。皆さんの夢の実現のために必要な、知識・技能・態度・志向性、創造的思考力を醸成し、統合的な学習を経験し、卒業時には、自信をもって、皆さんを社会に送り出せる環境を提供できるものと確信しています。

さまざまなサポートを行います

皆さんの学生生活が楽しく、充実したものとなるように、より良く学べる学生生活環境づくりに努めています。修学支援、経済的支援、就職支援、課外活動の支援を行っています。きめ細やかな相談・助言指導を心がけ、教職員が学生さんからのいろいろな提案に前向きに対応しています。

皆さんの夢の実現、目標の実現・達成、自分探しのために大いに山口大学を活用してください。山口大学は希望をもち、元気で熱意があり、自己の人生の目的や夢の実現をめざす学生さんを歓迎いたします。来年4月桜が満開となる入学式で皆さんと再びお会いできることを楽しみにしています。

オープンキャンパスは 新しい挑戦への序章

＝山口大学を知るための3つのチェック＝

高校生・受験生にとってのオープンキャンパスは、大学を深く知ることや施設・立地環境などのアメニティ・チェックのほかに、自身の未来図を描き勉学に対するモチベーションを高める機会でもあります。そこで、山口大学を志望する人にとって不可欠な3つの基本チェックを掲げておきます。これらの情報をチェックしてキャンパスを散策すれば、山口大学をまるごと体感することができるでしょう。



富永 倫彦
アドミッションセンター長
(大学教育機構 教授)

日本語、情報科学、外国語、人文社会科学、自然・応用科学、健康科学、学際領域の7つの分野について示しています。これらのグラデュエーションポリシーも山口大学のWebページ上で閲覧できます。

Check 1. 求める学生像

大学入学を志願するとき、絶対に忘れてはならないのがアドミッションポリシー（Admission Policy）のチェックです。大学がどのような学生を求めているかを示したもので、全学共通のものと各学部学科等が示すものがあります。これらのアドミッションポリシーは山口大学のWebページ上で閲覧できるほか、現在配布中の「入学者選抜要項」、11月配布予定の「学生募集要項」の巻頭にも掲載しています。



情報コンセント設置は学生食堂「きらら」にも……。

Check 2. 教育の質

商品には品質保証をすることが普通であるのに、これまで教育機関が教育の質を保証してきたことはほとんどありませんでした。山口大学では、全国の大学に先駆けて「教育の品質保証」をしています。具体的には、グラデュエーションポリシー（Graduation Policy）を掲げ、すべての学部学科等で「教育の成果として学生に保証する最低限の資質」を明示していることです。本来は在学中に受けるすべての教育の成果を総合的に保証するものですが、より具体的に示すために、教養教育と学部学科等における教育に分けています。教養教育については、

Check 3. 学びの環境

学生生活を充実させるために環境はきわめて重要な要素です。自然に恵まれたキャンパスの立地環境や構内の雰囲気は体感するのが一番です。施設・設備も「百聞は一見に如かず」です。3キャンパス合わせて160万冊を超える蔵書を誇る図書館には、ゆったりとした閲覧室や検索用パソコン、各種ビデオやDVDの視聴ができるメディアコーナーなどを備えています。またキャンパス内には至るところに情報コンセントを設置し、学生はいつでもインターネットを利用できます。

特徴ある就職支援

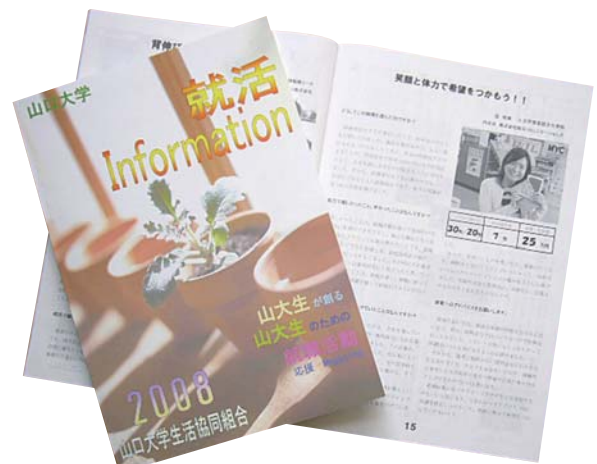
大学を卒業して、進学する人、就職する人、進む道はさまざまですが、大学を卒業した次の一步を、自信と期待をもって歩むことができるように、山口大学では、学生のキャリア形成支援の活動に力をいれています。ここでは、本学の多彩な支援活動のなかから、特徴的な取り組みをいくつかご紹介しましょう。



平尾 元彦
大学教育機構教授

教育連携・相談重視

「自分のキャリアは自分で考え、選択する」ための基礎力を身につける共通教育科目「キャリアと就職」で3年生は、就職活動の準備を始めます。多くの学生が受講できるように時間帯をずらして複数コマを開講し、昨年度は5コマで約900人の学生が学ぶ大型講義となっています。さらに、この授業を担当する専任教員が就職支援室に常駐して個別相談に対応することで、教育活動との効果的な連携を図ってきました。また、ジョブカフェ山口（山口県若者就職支援センター）による授業への参画とキャリアカウンセリングの学内実施によって、相談体制に厚みを増しています。一人ひとりの個性が輝くキャリア支援の実現は、山口大学の目指すところです。



就職活動体験談いっぱい冊子

機会を大切に！多くの企業・官公庁にご協力をいただきながら、働くことをしっかりと理解する。山口大学が最も力をいれる取り組みです。

職業リアリティの向上

地方の大学生は、働くことを身近に感じる機会がなく不利だと言われることもあります。一方で、「山口大学の学生は意識が高い」との評価もいただいています。その秘密は、職業の現実感覚、すなわち“職業リアリティ”を向上させるためのさまざまな取り組みです。低学年からのキャリア教育に力をいれるとともに、インターンシップの推進、そして、人事担当者や技術者・経営者などをお招きした「学内業界・企業研究会」（平成19年度は12月から3月まで367社参加）など、リアルでライブなキャリア学習の実践に力を入れてきました。学内での学びの

学生による学生のための活動

就職活動を終えた4年生とこれから取り組む3年生による「就職活動交流会」を年2回開催するほか、公務員を目指す学生と官公庁で活躍する先輩との交流の機会である「公務員講座OBOG交流会」の開催や、先輩の就職活動体験談を冊子にした「就職 Information」の発行など、学生たちが主体的に行う活動を、大学生協や山口県若者就職支援センターと協力しながら支援しています。

自分たちの未来を自分たちでつかんでいく。そのための活動を自分たちで考え実践する。そんな元気な学生が多いのも、山口大学の特徴のひとつです。

知って得る情報

Q & A

Q AO入試や推薦入試について教えてください。

A ●AO入試
通常の学力試験では判断できない一人ひとりの個性や学ぶ意欲を評価するため、面接や講義等理解力試験などの試験を実施します。推薦入試との違いは、学校長からの推薦がいないこと、調査書の評定平均など高校での成績が問われず、希望すれば誰でも挑戦できることなどが挙げられます。8月中旬から出願し、試験は9月中に実施され、合格発表は10月上旬で本学では最も早い入試となります。

●推薦入試
学校長の推薦する受験生を対象とした入試制度で、個別学力検査を免除して調査書や面接、小論文などで入試を実施します。なお、山口大学では、大学入試センター試験を利用する推薦入試（人文、医、工、農学部）と利用しない推薦入試（教育、経済、理、農学部）を実施しています。

Q 入学料や授業料はいくらですか？

A 平成20年度の学部学生の入学料は、282,000円
授業料は、年間535,800円です。
詳しくは、
<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~suite/index.html>をご覧ください。

Q 授業料を免除してもらうことはできますか？

A 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合は、授業料の全額または半額の免除を受けることができます。また、経済的理由による免除制度とは別に、特待生制度も設けています。この制度は学部学生に対し、学期毎に、各学部学年から学業成績が特に優れ、かつ、人物優秀であると認められる学生を選考し、授業料を半額免除するものです。その他に奨学金制度もあります。詳しくは、
http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~kouseika/ssc/layer2/ssc_big01shien_mid01keizai.htmをご覧ください。

Q 入学したらまずどんなことをするの？

A 入学式を終えた後、各学部に分かれオリエンテーションやフレッシュマンセミナーを受けることとなります。学部によって内容は異なりますが、オリエンテーションではカリキュラムの説明、大学生としての心構え、大学生活について説明します。フレッシュマンセミナーでは、大学生活をより有意義に過ごしてもらうためにさまざまな趣向

をこらした催し物が行われます。また、授業開始日までに、健康診断や図書館オリエンテーション、先輩方が主催する新入生歓迎フェスティバルが行われます。このような行事に参加することで、より大学を理解していくとともに友達作りの場にもなります。

Q 履修届って何？

A 高校までは決められた時間割に沿って、授業を受けていると思いますが大学での時間割は学生がそれぞれ自分で作ります。入学した学部ごとに決められたカリキュラムというものが、これに沿って時間割を決めていきます。簡単に言うと履修届とは、学生自身が決めた時間割を大学へ届け出ることを言います。

Q サークルに入りたいけど、どのようなサークルがあるの？

A 体育会所属サークル37、文化会所属サークル17、その他に64の同好会があります。4月初めに開かれる、サークル紹介のためのイベント、「新入生歓迎フェスティバル」や、引き続き開かれる、各サークル・同好会による茶話会に出席して、自分にあったサークルを探してみましょう。

Q 山口大学では、どんな資格が取得できるの？

A 学部によって異なりますが、教育職員免許状や学芸員、図書館司書、測量士補、技術士補などの資格を取得することができます。詳しくは、大学案内の各学部のページをご覧ください。

Q オーストラリアに留学したいけど、留学できるの？

A 留学はできます。
山口大学が学術交流協定を締結しているオーストラリアの大学は、スインバン工科大学、ニューカッスル大学、キャンベラ大学の3大学ですが、スインバン工科大学が経済学部の学生のみ、ニューカッスル大学が工学部の学生のみ、キャンベラ大学は教育学部の学生のみ交換留学が可能です。現在のところ経済学部、工学部、教育学部以外の学生は、残念ながらオーストラリアに交換留学による留学はできません。
オーストラリア以外で学術交流協定を締結している大学への留学はできます。詳しくは、「留学制度を知っていますか」をご覧ください。

Q 卒業後の進路は、どうなっていますか？

A 学部卒業生（医学部医学科・農学部獣医学科を除く）の1,837人のうち、進学者526人、就職者1,189人です。就職者のうち、民間企業等966人、公務員114人、学校教員109人となっています。（平成20年3月卒業生実績）

Kogushi Campas

小串キャンパス

医学部の学生が集う小串キャンパスは、宇部市の中心部にありながらも近くの河畔公園から四季を感じることができます。そんな環境のもと、日々活発な研究活動を行っています。

KOGUSHI CAMPUS MAP

宇部市 医学部



Tokiwa Campas

常盤キャンパス

工学部の学びの場である常盤キャンパス。近くには宇部市の名所「常盤公園」があり、美しい景観が楽しめます。中四国地域の工学部では最大の規模を誇り、研究施設も充実しています。

TOKIWA CAMPUS MAP

宇部市 工学部



学生から

出会いから始まること



人文学部 人文社会学科
社会情報論コース 3年

東前 久美子

私は高校生の時に、韓国の友人と知り合い、その国を知りたいと思うようになりました。そして、それが大学進学を決めた大きなきっかけでした。単純だったその思いは今、今後の研究テーマとして、私の中で大きな部分を占めています。

単純な理由から大学に入って、よさこいサークルの仲間と出会い、踊り、感動を共有。昨年オープンキャンパス実行委員長になって企画・運営を

始めた半年間、実行委員の皆と、厳しい意見でぶつかりながら、学内外を駆け回りました。頭がいっぱいになって、泣きそうな時も皆のおかげで乗り越えることが出来ました。

笑い、泣き、感動する感情を表に出す位に、自分が本当に青春していると胸を張って言える瞬間があります。自分が馬鹿みたいに熱くなれることがある、それは分かち合うことができる人たちがいるからこそ出来ることです。そのために、自分が少しでも好きだと思うことに挑戦する、それが自分の出会いを増やすのだと思っています。



よさこい仲間と一緒に
(筆者：最左1列目)

私の授業

私の授業



人文学部 欧米言語文学講座
講師

皆尾 麻弥

人文学部の英語学・英米文学コースでアメリカ文学関係の授業を担当しています。と言いましても、「イギリス文学」と「アメリカ文学」とに分ける必要もありませんし、「アメリカ文学」を専攻したからといってアメリカで生まれた全ての文学に興味があるわけではありませんけれどもね。私はアメリカとかイギリスとかいった枠組みに拘らず、ある1人の作家の、ある1つの作品に、1

人の読者として真剣に向きあうという形で研究・授業を進めています。

文学を研究しようとするときに、最も大切なことはなんでしょう。それは、作者の言葉を一語一語丁寧に拾い上げ、正確に読み解くということではないでしょうか。外国語の文章を読むとき、私たちは決して辞書を引く手間を惜しんではいけません。想像力を働かせ続けなくてははいけません。

私の授業では、正確で緻密な読書というものが、どれほど根気と想像力と創造力を必要とする作業であるかということ、皆さんに分かっていただけたらと思います。文学作品を読むということの本当の意味を、一緒に見つけていきましょう。

私の研究

ひとつの道



人文学部 哲学・思想講座
准教授

藤川 哲

「研究テーマは“これをやらないと死ぬ”というものを選びなさい」という話を読んだ覚えがあります。ちょっと極端な表現だとは思いますが、死活問題という意識で自らの研究と向き合うなら、日々の行動もおおのずと違って来るかもしれません。

山口大学へ着任してしばらくは、学生時代から読みたかった研究書をひも解いたり、美術館の学芸員として働いていた頃に着想したテーマを掘り下げていました。しかし、あるとき「学生時代、学芸員時代を通して誰よりも蓄積があると言える分野はいったい何だろう」と自問して国際美術展の研究に行き着きました。

黒澤明や北野武も受賞しているヴェネツィア国際映画祭の源流が、1895年に始まったヴェネツィア国際美術展です。世界の美術の最新動向を紹介する場として現在でも注目を集めており、私は

1993年から欠かさず見ていただけてなく、会場の様子を写真で記録したり、資料を集めていました。

この研究を始めてしばらくして、美術史学を志した理由を思い出しました。それは、海外の美術動向を日本に紹介できるような仕事に就きたい、という高校生の頃の夢でした。その後20年余の年月のなかで、記憶の底に埋もれていた夢でしたが、今の自分と照らしてみても、ぴたりと重なる部分がありました。

つねに自分が本当にやりたいことを追究することで、人生のそれぞれのステージがひとつの道に収斂してくるということを実感して、幸せに感じました。



2007年 ヴェネツィア・ビエンナーレ第52回国際美術展よりメキシコ館概観(山口情報芸術センターの開館記念イベントでも紹介されたラファエル・ロサノ＝ヘメルを展示)

学生から

やりたいことができるところ



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育コース 美術教育選修 3年
服部 奈央

私が山口大学に入学して2年以上経ちました。私はこの緑豊かな地にある山口大学で、落ち着いた大学生生活を送っています。

私は美術に興味を持ち、この学科に入学しました。油絵、デザイン、工芸、美術史、美術教育などの、美術に関するさまざまな分野を学ぶことができ、充実した毎日を送っています。例えば私は今、山口の有名な陶芸家の元で、陶芸の授業を受けています。大学の授業は本格的で、土を練つ

て器の形をつくり、釉薬をかけて窯に入れ、焼き上がりまで窯の様子を見て温度の調節をする、というところまでやります。こういった貴重な体験は、大学に入るまでしたことはありませんでした。

また、大学は時間に余裕があり、作品をつくったり、友達と旅行をしたり、やりたいことを沢山しています。山口にはいい人が多く、大学でできた友達や、バイト先でお世話になっている方々に、いつも救われています。高校生の方々にも、是非山口大学をオススメします。



陶芸っておもしろい

私の授業

指導法を意識しながら技術を高める

教育学部 音楽教育講座
准教授

林 満理子

私は独唱と合唱の授業を担当しています。独唱の授業は歌うための基礎だけではなく、指導法も身につける事が目的です。全身鏡を前に、自分がどういう顔、姿勢で歌っているかを見ながら、一人10分程度のレッスンをを行います。個々の課題が違いますので1対1のレッスンが効果的ですが、ここは教育学部ですから教える過程も大切です。通常の音楽大学と違い、みんなの前でレッスンをします。

人のレッスンを見ることによって、自分にない課題に直面した時、どういう事を教えたら良いかが自然と身につけていきます。また、合唱の授業も同様に指導力を身につけるための授業です。

1年生から4年生までの合同授業で、指揮も伴奏も全て学生が週代わりで担当します。学年が入り混じっていますから指導力もさまざまです。下級生は上級生から学ぶ事は当然ありますが、上級生も下級生から学べる事は多くあります。問題にぶつかった時、どうしたら良いのかという事をそれぞれ考えられるからです。どちらの授業もそういう引き出しを増やすことが狙いです。

声は自分の体に既に備わっている一番身近な楽器で、それぞれ顔が違うように声もオンリーワンです。その個性をできるだけ伸ばし、また子供達の個性を伸ばせる教員になってもらいたいと思いつつ、日々授業をしています。



指導法を身につける独唱(筆者：右)

私の研究

国語学と映像のコラボ



教育学部 国語教育講座
准教授

有元 光彦

専門の国語学、特に方言研究では、フィールドワークによってデータを収集します。その際、調査項目を書いた「調査票」が必要です。しかし、感動詞のような項目を調査する場合には、調査票を使って質問するよりも、視覚的に訴えた方が回答効率が高いのではないのでしょうか。

例えば、「ジャーン」に相当する語を調べたいとき、「新しい服を人に自慢げに見せるとき何と

言いますか」と口頭だけで質問するのではなく、その語が出てくる場面をビデオで見せるのです。そこで、授業で「ビデオ質問調査票」を作成することにしました。監督もカメラマンも俳優もすべて学生です。シナリオも作ります。まるで映画製作です。残念ながら、ビデオはお見せできませんが、一場面ならどうぞ(写真)。さあ、これを使って、実際に方言を調査できるのでしょうか。チャレンジです。



「ジャーン」の一場面

学生から

職業会計人コースとは



経済学部 経営学科
職業会計人コース 3年

富永 慎也

私は高校3年生のときに大学のパンフレットを見てこのコースについて知り、興味があったので山口大学に行くことにしました。

高校生の頃は税理士と会計士が具体的にどういうことをするのかについてよく知りませんでした。しかし、大学に入学して税理士と会計士についての説明会などに参加して税務コースに入ることに決めました。

職業会計人コースには、公認会計士を目指す会計コースと、税理士を目指す税務コースがあります。どちらも会計の国家資格の取得を目指すためのものですから勉強がハードであることは確かです。しかし、他の大学などで会計士などを目指している人たちと比べて、このコースではダブルスクールする必要がなく、資格試験に近い科目は大学の単位として認められるなど効率よく学習できるため確実に最適な環境にあると思います。

今の時点で会計士などを目指してみようという気持ちがある人はもちろん、少しでも興味がある人はこのコースに入るべきだと思います。

私の授業

日常生活と契約



経済学部 経済法学科
教授

平中 貫一

私が担当しているのは、民法I（契約法）です。皆さんはあまり意識していないと思いますが、日常生活のさまざまな場面で、契約が関係しています。皆さんのほとんどは未成年者ですが、未成年者の契約は両親の同意を必要とし、同意のない契約は取り消すことができます。小遣いで買えるようなものは例外ですが、バイクや車の購入は同意が必要です。

皆さんが大学に進学するのも契約です。在学契

約というのですが、ひところ学納金不返還特約が話題になりました。いったん私学に入学金・授業料等を納めると、あとで国立大学に入学して私学を入学辞退しても、学納金は返還されないというものでした。消費者契約法の施行後、授業料の返還が裁判所により認められることになりましたが、契約法的には、入学辞退は契約違反ですから、損害賠償を払うのがルールです。私立大学の4割は定員割れしている現状ですから、背に腹は代えられない面もあったわけです。

このように契約法は、日常生活の基本的ルールを規律していますから、私の属する経済法学科では必修科目に指定されています。皆さんも経済法学科で契約法を学びましょう。

私の研究

地域経済統合と産業発展



経済学部 国際経済学科
教授

尹 春志

現在、世界中で地域経済統合の動きが加速しています。貿易や投資、生産活動がヨーロッパやアジア、北米といった特定の地域内部に収斂する傾向が強まるとともに、その動きをさまざまな制度の統合を通じて強化する、というのがその内容です。この地域主義と言われる動きは、一般的に近隣諸国との相互依存を高め経済成長を促進すると考えられています。しかし、それぞれの地域は産業集積の深さや広がり、労働市場のあり方、あるいは社会構成の違う国から成り立っているため

に、地域統合のなかで作られるいろいろな制度的な条件が各国の産業発展に及ぼす影響も異なるものにならざるをえません。

この点を踏まえつつ、各地域で進められる制度的な統合と産業発展経路の関係を明らかにし、望ましい制度設計とは何かを構想することを、研究の主要なテーマにしています。特に各地域のなかで後進的と言われる国に着目すると、経済統合＝経済成長＝「良いこと」という単純な図式とは違う状況が浮かび上がってきます。今はその歴史的に形成された経済・社会構造と地域統合という新しい環境の下での産業発展との関連を、東アジアを中心に他の地域とも比較しつつ検討しています。

学生から

大学に入学して良かった2つ



理学部 自然情報科学科
4年

松尾 恵理子

皆さんはじめまして。私は今、イモリを使った卒業研究に励んでいます。私の学科では1～3年で生物・化学などの授業科目や論文の読み方、発表の仕方を学習し、基礎学力と基本的実験技術を身につけます。そして、4年次に1年間研究室に配属され、卒業研究を行います。研究室では先生

方や院生に囲まれ、学問の厳しさに触れたり、研究室行事を楽しむなど、さまざまなことを教わります。

私が大学に入学して良かったことは、2つあります。1つは大学での勉学をとおして、1つのことを沢山の角度から深く見れるようになったことです。もう1つは、茶道部で他学部の友人や先輩・後輩と知り合い、人々の優しさや想いに触れたことにより、協調性や物事を教わる姿勢が身に付いたことと、自分自身について客観的に見れるようになったことです。知識や技術も重要ですが、皆さんにはぜひ部活に入ってほしいと思います!!

私の授業

実験を通して物理学を学ぶ



大学院理工学研究科
自然科学基盤系学域
(理学部 物理・情報科学科)
准教授

藤澤 健太

物理学を学ぶ大学3年生向けの、物理学実験の授業を紹介します。私が担当するのは「物理学実験II」で、これは2年生後期の「実験I」、3年生後期の「実験III」というシリーズになった実験の授業の2番目にあたります。

物理学の実験といえば力学的な運動、振子・波の実験、電気・磁気、熱などが一般的な実験課題で、テーマに沿って実験を行って実験の技法を学ぶのが普通の形態です。しかし物理学実験IIではより高度に、実験を通じて物理学の理解を深める

こと、を目標とします。そのため、実験の授業でありながら、全体の3分の1程度は「物理実験学」の講義と演習を行い、実験の考え方やデータの取り扱い、さらに実験の計画法についてじっくりと説明します。例えば次元解析やオーダー・エスティメーション、レポート作成の技法など、実験を行うためだけでなく、物理学を習得するために重要な概念を講義で学び、実験を通じて体得しているというわけです。

対象は物理学を学ぶ3年生ですから、既に基礎的な物理学の課程は修めています。しかし、実験を自分で計画し、データを取得し、解析してレポートにまとめる、という作業を自分で計画し実行するのは、たいていの学生にとって初めてのことです。四苦八苦ししながら知恵を絞り、色々やっているうちに次第に実験らしくなっていく過程こそ、実験の学習にふさわしい、と考えています。

私の研究

光をあやつる新素材



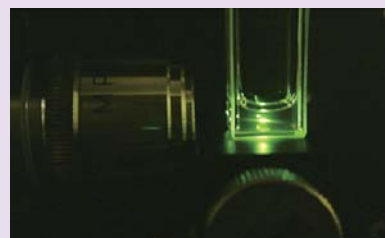
大学院医学系研究科
応用分子生命科学系学域
(理学部 生物・化学科)
准教授

川俣 純

非線形光学効果を利用すると、光の色を変化させたり、電波を目に見える光に変換するなど、光を操ることが可能です。写真は、私の研究室で開発した有機化合物の溶液からの、二光子励起発光（非線形光学効果の1つ）の様子です。強い光があたった場所ほど非線形光学現象が起こりやすいことを利用し、目に見えない赤外線をレンズでしぼり、焦点付近の光強度の高い場所で目に見える緑色の蛍光を発生させています。この技術はガンなどの病気の診断や治療に応用できます。また、

ポストBlu-ray次世代大容量光記録ディスクへの応用が大きく期待されています。

しかし、現在知られている物質の非線形光学効果の効率は低いため、この効果を利用するためには、大型で強いレーザーを光源として使う必要があります。私の研究室では、家庭や職場で簡単に非線形光学効果を利用できるようにすることを目指して、弱いレーザーでも非線形光学効果が生じる新素材を、企業や国内外の研究機関とも連携しながら、卒業研究生や大学院生の皆さんと一緒に開発しています。



二光子励起発光の様子

学生から

山口大学に入学して…



医学部医学科 2年

相川 智美

私の所属する医学科は、人命を預かる職業に就くので、勉強のレベルが並大抵のものではありません。しかし、熱い先生方の系統立てられたカリキュラムや、山大独自のコースなどが興味深く、意欲がかき立てられます。そして、勉強だけで終

わらないのが山大的医学生のごいところで、勉強のあとの自由な時間では部活や遊びなどに思いっきり打ち込み、趣味を楽しんでいます。その中で培われた仲間とのつながりが、ハードな勉強を乗り越え、さらには医師となっても大きな財産となっていくはずで

す。学生や先生方が一丸となり、夢へ向かって進んでいく、そんな環境の整った山口大学で学べ、嬉しく思っています。



サークル活動もエンジョイ(筆者右)

私の授業

さらば！IT授業



大学院医学系研究科
プロテオーム・蛋白機能制御学分野
准教授

藏満 保宏

人がどうやって食べ物を食べることでエネルギーや体を作るのかということ、正確に理解するのは至難の業です。生体内でおきる各種分子の合成と分解は、代謝と呼ばれる一連の化学反応により行われます。代謝のうち分子が分解される場合、つまり複雑な構造の化合物が簡単な構造の化合物に変えられることを異化と呼び、異化によってエネルギーが産生されます。逆にエネルギーを消費して、簡単な構造の化合物から複雑な構造の化合物がつけられることを同化と呼びます。私の授業『細胞生物エネルギー学』ではこの一連の代謝を勉強します。

私自身、学生時代はこの代謝の分野が一番苦手

で面白くありませんでした。登場してくる分子の数の多さ、分子生物学とは異なるストーリー性のなさ、地味な展開等、どれをとっても面白くありませんでした。この授業を担当するようになってから、学生がこの地味な分野である代謝の講義を聞いて、退屈で眠くならないようにするにはどうしたらよいか試行錯誤しました。その結果、ITを使わない、プリントと板書を用いた昔ながらの講義を軍事教練的に大きな声でやることとなりました。ITは視覚に訴えますが、プリントに図を書いて直接学生が書き込めるようにすることが眠さ対策には一番だという結論に至りました。ただ、動きのない図のみを用いた講義では理解してもらうのに限界があるかもしれません。禁断のITについて手を出すかと悩んでいる毎日です。



質量分析計

私の研究

肝臓がんと歩んできた二十年



大学院医学系研究科
消化器病態内科学分野
准教授

山崎 隆弘

消化器内科は、食べ物の通る道筋である消化管(食道・胃・小腸・大腸)とその消化および貯蔵等を担う膵臓・肝臓といった多岐にわたる臓器を扱う診療科です。なかでも、われわれは、国民の死亡原因の第1位に挙げられる「がん」のなかで、胃がん・大腸がん・肝がん・膵臓がんといった上位を占める消化器がんを戦いを挑んでいます。私は、二十年来、肝がんの治療に取り組んでまいりました。

肝がんは、昨今話題となっている薬害肝炎問題でもクローズアップされたように、感染してから約30年の経過後に発がんします。私が医師になったころは、まだC型肝炎ウイルスも発見されておらず、画像検査もお粗末であったので、大きな肝がんで発見されることが多く、予後の悪いがんのひとつでしたが、最近の進歩は目を見張るほどで、1cm以下の肝がんを見つけることも可能とな

りました。私はそのなかで、肝がんの新しい治療法の開発に取り組んでまいりました。肝がん治療に携わるようになって、10年生存率が約20%となり、肝がんの生存率を今までの10%アップさせるという初期の目標は達成された感がありますが、治療法が進む程、新たな課題がでるのは世の常であります。現在は進行した肝がんに対しての新規の化学療法の実現に取り組んでいます。

消化器内科は、多岐のがんを扱う診療科ですので、多くの人材を必要とします。興味のある高校生は、教室に遊びにきてみませんか？うちでは、マウス以外にメダカも実験のため飼っています。歓迎します。



治療前のCT画像: 矢印のごとく11cmの肝がんを認める(白い部分)



治療後のCT画像: 動注化学療法により、治療前の肝がんは消失した。治療後、数回の再発を認め、そのつどの治療により、初回治療後、約10年現在も生存中である。

学生から

自分を育てる最も重要な期間



工学部 電気電子工学科 4年
首藤 誠裕

皆さんは“大学生”って、どんな印象がありますか？

“いつも自由に遊んだり、アルバイトができる”などが、ほとんどではないでしょうか。確かに、遊び過ぎで講義に出ず、留年した人もいますが、逆にきちんと勉強もして、両立している人もいます。つまり、「自分次第」だということです。強い心を持つことが重要になります。

私は高校まで家事など一切したことがなく、毎日、学校→部活→食事→風呂→睡眠の繰り返しでした。しかし大学に入学し、一人暮らしを始めると、身の周りのことは全て自分でしなければならなくなり、初めのうちは両親や先輩に色々アドバイスを貰い、自立することの難しさを学びました。



所属研究室にて～同級生や先輩方と～（筆者中央）

大学生活にも慣れてくると、アルバイトを始め、コミュニケーションの大切さなど、将来、社会に出るための、とても重要なことを学びました。また、大学には国内外のさまざまな地域から学生が集まるので、サークル活動や学科での友達との交流を通じて、今まで自分の知らなかったたくさんのことを知ることができ、常に勉強、発見があります。

このように大学とは、日々さまざまなことを学び、社会人になった時に役に立つように、“自分”を育てる重要な期間だと私は思います。

私の授業

数理計画法



大学院理工学研究科
情報・デザイン工学系学域
(工学部 電気電子工学科)
准教授

若佐 裕治

私たちの身のまわりには「効率よく」動かしたいもの、働かせたいもの、作りたいものなどが数多くあります。例えばカーナビでルート検索すると、道路状況や時間などのさまざまな制約の下で最もよいルートの結果を出してくれます。カーナビの中では、コンピュータが計算し、問題を解いているわけですが、ただ闇雲に無数にあるルートの組み合わせと到着までの時間を計算しているわけではありません。なるべく短い計算時間で「効率よく」解法を見つけているわけで、どのように

コンピュータに計算させるかという方法が重要になってきます。

このような方法や問題の考え方を数理計画法という授業で教えています。数理計画という名前から想像されるように、実際には、解かせたい問題を数式で表し、高校、大学で学ぶ数学を応用して解法を導きます。15年前のコンピュータで解くのに1カ月かかった問題が、現在では1分で解けるようになったという報告があります。これはコンピュータの性能向上だけではありません。問題を解くための「効率のよい」解法が開発されたことによる部分も大きいのです。

授業の中では、教えたいこと、これまでの履修内容、授業時間などの制約の下、どのようにしたら「効率よく」理解してもらえらるだろうかと考えながら教えています。

私の研究

宇宙からエンジン開発!?
—燃料噴霧の燃焼メカニズム解明—



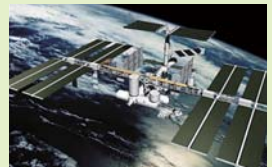
大学院理工学研究科
システム設計工学系学域
(工学部 機械工学科)
准教授

三上 真人

自動車のディーゼルエンジンや航空機のジェットエンジンでは液体燃料の噴霧燃焼が行われています。噴霧とは霧状に微細化された無数の燃料液滴の集まりです。その完全燃焼のためには噴霧全体に火炎が燃え広がる必要がありますが、個々の液滴は非常に小さいため、液滴同士がどのように関連し合って燃え広がりやに影響しているかはまだ

完全には解明されていません。

私の研究室では燃料噴霧の燃え広がりメカニズムを調べるための基礎研究として、個々の液滴の観察の容易な大きな液滴から成る液滴群の燃え広がりについての実験を微小重力環境を利用して行ってきています。大きな液滴を用いると浮力の影響を受けて燃焼状態が変わってしまいますが、微小重力環境では浮力の影響を無視できます。この実験は、国際宇宙ステーションに設置された日本実験棟「きぼう」での実験候補テーマにも採択されました。2010年後半から始まる第2期の宇宙実験を目指します。



国際宇宙ステーション (JAXA提供)

私がこの学科を選んだ理由



農学部獣医学科 5年
林 亜樹

(筆者：右から3番目)

高校1年生の時、「興味のある職業」というテーマで獣医師についてレポートを作成したのをきっかけに、獣医師になろうと決めました。それまではただ漠然と動物と関わる仕事に就きたかったのですが、「人のため、動物のため、できるだけ

役に立ちたい」という思いから「獣医師」は「将来就きたい職業」となりました。

そして今、この山口大学で獣医学を学んでいます。さまざまな講義や実習を重ねるごとに少しずつ分かる事やできる事が増えてきています。そして何より、大学というのは高校よりもずっと多様なバックグラウンドを持つ仲間との出会いの場です。その中で新たな視野を得ることにより、多様な自身の価値観を持つことができると私は思います。

「獣医」と一言でいってもさまざまな道があります。固執せず、柔軟に広い視野で多くの見方、経験を試してみると新たな自分を発見できるかもしれません。

私の授業

農業の基礎を学び体験する



農学部附属農場
准教授

藤間 充

現在の日本の社会では、農業を身近に感じる機会は非常に少ないものです。それは農学部に入学する学生においても同様で、多くの学生が農作業の体験をほとんどしたことがありません。また、近年の農学の研究は高度に専門化が進み、研究内容が農業の現場から遠ざかっています。しかし、その研究成果の応用の場は、紛れも無く農業の現場です。そのため、実際に農業を体験し、作物が育っていく過程を、自分の目で観察することは非常に重要になります。

私と助教の荒木先生が担当している「基礎農場実習」では、教室で学ぶ理論を実際の農業と結び



田植え機による水稻の移植



収穫時のブドウ果実の着色の確認

つけることを目的に、水稻とブドウ・モモの果樹を中心に農業の基礎的な技術の修得と作物の生育過程の観察を行っています。水稻では、播種前の準備から収穫までの、果樹においても春先の開花前から収穫まで一連の作業を一通り行います。実際に自分の手で作業し、自分の目で観察することは、教室での授業内容をより深く理解するのに役立つと考えています。

このように文書で書くと堅苦しく感じますが、実際の実習は圃場で同級生と協力しながら汗を流すもので、楽しい授業科目です。

私の研究

ゲノム解読後に注目を集める「タンパク質」の研究



大学院医学系研究科応用分子生命科学系学域
(農学部 生物機能科学科)
教授

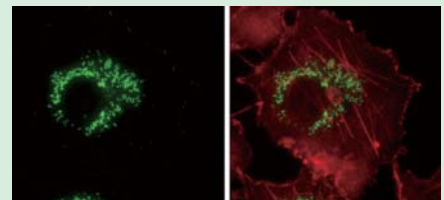
内海 俊彦

ヒトの設計図とも言えるゲノム（全遺伝子）の解読が完了した現在、これらの遺伝子が作り出す「タンパク質」に注目が集まっています。

タンパク質は、細胞内で遺伝子から「転写」および「翻訳」という過程を経て、アミノ酸が連結して合成されます。しかし、多くのタンパク質には細胞の中でさらに糖や脂質やリン酸基といった分子が結合して性質が変わり、異なる機能を持つように変化することが知られています。これを「翻訳後修飾」と言います。このタンパク質の翻訳後修飾は、細胞増殖や細胞死、細胞の癌化といった生命現象に密接に関係していることが次々と

明らかになり、これらの解析が、疾病の原因解明や疾病治療に極めて重要になってきています。

私たちは、試験管内で人工的にタンパク質合成を行う「無細胞タンパク質合成系」や目的タンパク質を細胞内で多量に合成する遺伝子導入細胞を用いて、特定のタンパク質に起こる翻訳後修飾を簡便に検出する方法を確立しました。この翻訳後修飾を手がかりとして、多くの疾病に関係する「アポトーシス」（プログラムされた細胞死）のメカニズム解明やその制御をめざした研究を行っています。



細胞の「アポトーシス」の過程でアクチンタンパク質が切断され、翻訳後修飾を受け、細胞質からミトコンドリアへ移行したことを示す蛍光顕微鏡写真です。

留学制度を知っていますか？

～海外を体験～

留学には日本の学生が海外に留学する（派遣）と海外の学生が日本の大学等に留学する（受入）に大きく分けることができます。ここでは派遣についてご説明します。

山口大学では、中国の山東大学、韓国の仁荷大学校、アメリカのオクラホマ大学、ドイツのエアランゲン・ニュルンベルク大学、カナダのリジャイナ大学など10国・地域22大学と大学間交流協定、12国・地域39大学・機関と学部間交流協定を結んでいます。この交流協定に基づいて、本学の学生を協定校に1年以内の期間派遣する場合は、休学することなく留学ができます。

協定校とは、授業料不徴収や単位互換を取り決めていますので、留学先大学へ授業料を納める必要はありませんし、留学先大学で履修した授業科目を本学で履修したのものとして単位認定も可能です。

日本学生支援機構の短期留学推進制度や山口大学日中学術交流基金などの各種奨学金制度を利用して毎年多くの学生が世界に羽ばたいて知見を広

げています。

また、夏休みや春休みを利用して、約1カ月間の海外短期語学研修（英語、中国語、ハングル（韓国語））を実施しています。語学の習得だけでなく、一般家庭でのホームステイなどを通じて異文化理解を深め、国際感覚を養成する貴重な体験の場となっています。なお、海外語学研修は、事前研修を受講したうえで現地研修に参加しますと「海外語学研修（英語、中国語、ハングル（韓国語）」4単位が認定されます。

有意義な留学を実現させるためには、自分の留学の目的や動機を明確にすることが大切だと思います。

留学生センター、留学生支援室、各学部の担当教職員があなたの留学のお手伝いをします。

担当：学生支援部学生支援課留学生交流係
TEL：083-933-5982
E-mail：ga142@yamaguchi-u.ac.jp

留学を振り返って



私は2007年8月～2008年5月までアメリカのオクラホマ大学の経営管理学部に交換留学生として留学しました。この10カ月はとても濃いものでした。まったくの新しい環境で、毎日新しい刺激を受けました。他の国からの留学生とのルームシェア・英語で専門科目の授業ととても貴重な体験でした。

最初の1カ月は何もかもが日本と違い、戸惑ってばかりで部屋にこもりがちでした。しかし、だんだんと生活に慣れてくると、授業のペースもつかむことができるようになり、また多くの友達ができ毎日が楽しくなりました。

オクラホマ大学には日本人の方がほとんどいらっしゃらなくてすごく不安でしたが、英語の勉強をするには最適の場所だと思いました。また多くの国の人と交流していくうちに、英語だけではなく、その国の文化やいろんな人々の考え方を知り、物事をもっと多角的にとらえられるようになり

経済学部 観光政策学科 3年 澤原 希美

ました。その国の人の意見や、諸外国の方から見た日本の印象など、教科書では学べないことを多く学ぶことができました。そして今ではもっと自分のことを冷静に見つめ直して、世界の人から見た日本という国や、自分がどういう人間なのかが少しずつわかってきました。

この10カ月の留学は私にとって今後の人生を大きく変えるものでした。海外の大学に10カ月行くという決心はすごく大変なものでしたが、今では一大決心をして本当によかったと思っています。



友人たちとポーズ

レポート記事 ～生活編～

ふしの寮での生活



人文学部 人文社会学科 3年
平川 しおり

ふしの寮

ふしの寮は山口大学の正門から見ると奥の方、理学部や人文学部の近くにあります。

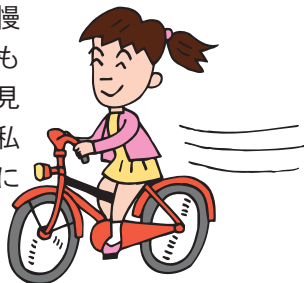
このふしの寮では約140人の学生が生活しています。部屋は基本的に二人部屋で、お風呂やトイレは共同で利用しています。また1日3食の食事をする事ができる食堂や、自分で料理をすることができる補食室というものもあります。

集団生活

ふしの寮での生活は集団生活であるので、一人暮らしの人よりも「他人」を意識して生活しなければなりません。夜早く寝る人、夜遅くまで勉強したい人、部活動やアルバイトで帰りが遅くなる人などさまざまな生活時間をもつ人が一つの場所で生活しているわけですから、お互いを思いやる必要があります。そのほかにも集団の中で生活しているからこそ、どのような行動をとるべきかを考えていかなければなりません。

ふしの寮で生活してみても

ふしの寮は大学の構内にあるので、授業の教室や研究室、図書館やサークル棟(部活を行う場所)が近くて便利です。また、寮費もそれほど高くないので私は月々の奨学金で寮費を支払っています。さらに、友人がいつもすぐ近くにいるので、風邪をひいたとき、勉強でわからないところがあるときなどお互いに助け合うことができます。少々我慢しなければならぬ点もありますが、総合的に見てふしの寮での生活は私にとってプラスの経験になったと思います。



わたしの就職活動



経済学部 経営学科 4年
壬生 遼太

3年生の11月、経済学部の「OB・OG交流会」に参加したことが、多くの出会いのきっかけでした。山口大学のキャンパスには、たくさんの企業の方が来てくれます。吉田キャンパスで大手6社の方が仕事を語ってくれた「ジョブスタディ」、常盤キャンパスの体育館に40社が集まってくれた「学内合同企業研究会」、そして、12月からはじまる「学内業界・企業研究会」など多彩です。数多くの企業の方とキャンパス内で会えるこのチャンスは、私は大いに活用しました。

就職活動は情報戦です。実際にお会いすることでより深い情報を入手することもできますし、これまで目を向けていなかった業界の知識を手に入れることができました。また、山口大学の就活仲間やインターンシップを通じて知り合った他大学の学生と情報交換することで、就職活動を有利に進めることもできたかなと思っています。

就職活動を振り返ると、エントリーシートで落とされたり、説明会のためにあちこち飛びまわったり、辛いことも確かにありました。でもこの活動を通じて自分自身が成長できたという実感はあります。知り合いがたくさんできましたし、人と出会う楽しさを感じることもできました。

山口大学には、全国各地からたくさんの企業が集まってくれます。そして、私たち学生の活動を積極的に支援していただける環境が整っています。そのおかげで私は、初めから終わりまで充実した活動を送ることができ、自分が本気で働きたいと思える会社と巡り会うことができました。

大学生の「1日」 教えてください。

僕は編入学生なのでサークル活動や部活はまだや
ってません。そろそろ参
加してもいいかな。

「サークル」の募集は口頭
募集で行く人のように
なれば、もう一人前の
大学生！

教員から寄せられた著書



『中国の大衆消費社会：市場経済化と消費者行動』

(李 海峰 著 榊ミネルヴァ書房出版、2004年2月28日発行)

21世紀には歴史上最大の「消費革命」を実現させるであろうと予測されている中国の大衆消費市場が、世界に注目されています。急速に拡大しつつある世界初の「社会主義市場経済」について、さまざまな分野で研究が行われています。本書は、この課題について直接論じるものではありませんが、社会主義市場経済の発展過程における消費生活の変化、消費者行動の特徴、すなわち、市場経済導入、発展の過程において大衆消費社会がどのように形成されつつ、「豊かな生活」が実現されているのかを主たる研究課題にするものです。

これまで欧米諸国や日本などの大衆消費社会の形成に関する研究で論証されたのは、高度経済成長の実現によって大衆の物質的欲求が刺激されただけでなく、それが人々の生活態度や価値体系に重大な変化をもたらしたことでした。一度創出されるや、この芽吹きつつある発展は社会的経済的変化を促す強い力となりました。社会主義市場経済による大衆消費社会の形成と共に、中国における今後の経済発展の原動力になるのは政治動向ではなく、大衆消費社会であると考えられます。

アメリカの経済学者ジョージ・カトーナ(G.Katona)

李 海峰 (Haifeng Li) 教授 経済学部 国際経済学科
Tel : 083-933-5535 E-mail:haifengl@yamaguchi-u.ac.jp

は、「大衆消費社会」について、三つの特徴を挙げました。すなわち、自由裁量の購入を許す一般的な豊充、経済的に影響を与える消費者権利および消費者心理の重要性です。中国の市場経済化の進展と消費者行動の変化などの経済社会の現象はかつてアメリカや日本が経験したような「大衆消費社会」とどのように類似し、相違しているのか、本書は欧米や日本の研究・理論を応用し、実態調査に基づく分析を通して、この課題の解明を試みることにしました。

本書は先進諸国での研究・理論を考察し、それを社会主義市場経済国における大衆消費社会の形成と消費者行動の分析に応用した初めての検証研究です。今後「歴史上最大の消費革命」となる中国の大衆消費社会と消費者行動の研究に重要な基礎を提供したと考えます。

本書は日本学術振興会の平成15年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)によって刊行されたものです。



中国語訳『文学部唯野教授』

(中国 人民文学出版社 2007年9月発行)

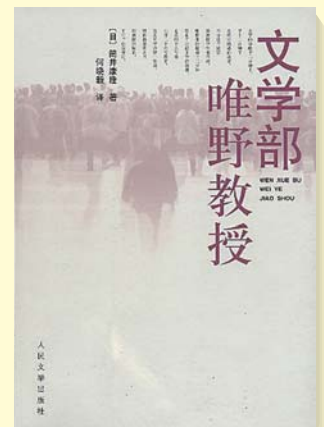
思えば私は日本に来て、日本語を覚え、日本語の作品をある程度読めるようになってから、初めて買った小説はこの『文学部唯野教授』でした。場所と言えば、JR大阪駅ビルにある「大丸」の中の書籍売り場でした。あの当時の超話題騒然を、いまから見れば嘘のようです。この間学生に聞いたら、この小説のことすら誰も知りませんでした。しかし私にとって初めて読んだときの衝撃は、いまでも忘れられません。いつかこの作品を中国語に訳そうと、密かに思い続けました。その思いを実現するには十数年の歳月を要するとは、自分の力不足にほどほどあきらめました。しかし、それでも出版できました。しかも出版したのは、中国における文学作品出版最高峰の人民文学出版社でした。あの岩波書店から出した小説としては、申し分のない出版社でした。この組み合わせは、もしかして十数年の歳月を必要としたかもしれません。

筒井隆康氏は間違いなく大文豪であります。その作品の多さ、発想の奇抜さ、書き方の多様さ、読者に対する刺激の激しさ…どれを持って、右に出る作家はそう多くないはずですが、現代日本文学を語るとき、絶対に無視できない作家の一人だと思います。しかし不思議なことに、氏の作品の中国語訳は、今まで一冊もありませんでした。『時を超える少女』などのSF小説のアニメは中国の若い人の間に知らない人がいないほどにもかかわらず、訳者として誇れることかもしれま

せん。とても重要な作家を初めて紹介できるとは、そうそう恵まれることがないからです。

しかし本作品は大学学問小説と評価されるほど、「印象批評」、「新批評」、「ロシア・フォルマリズム」、「現象学」、「解釈学」、「受容理論」、「記号論」、「構造主義」、「ポスト構造主義」という近代の文学批評理論を、その道の専門家でも青ざめになるくらい書いています。それらを間違いなく、しかも唯野教授の口調で翻訳するのは、至難な作業でした。その上、ストーリーと文体と言葉は、徹底的なブラックユーモア、ドタバタ、ナンセンス、パロディなど、筒井ワールドそのものです。これらを違う言語に変換するのは、それこそ無謀で、不可能に近いことでした。道理で氏の作品の中国語訳は今まで一冊もありませんでした。

私の翻訳はまだ満足にほど遠いが、自分なりに力を尽くしました。しかも今は中国の文学青年の間に、当時の日本ほどではないが、大きな議論を巻き起こしました。日本の大学について、文学批評について、そして筒井隆康という作家について。翻訳者として、これ以上翻訳冥利を感じることはありません。



何 晓毅 教授 大学教育機構 大学教育センター・留学生センター主事
TEL : 083-933-5065 E-mail : hexiaoyi@yamaguchi-u.ac.jp



日本企業の知的資本マネジメント

(内田恭彦、ヨーラン・ルース著 中央経済社 2008年4月1日発行)

本書は日本企業の価値創造のメカニズムを明らかにし、そのための実践方法を示すことを意図しています。一般的に終身雇用でボトムアップ型の日本型経営は変化の激しい市場では対応できないと論じられています。一方でトヨタやキヤノンの例を挙げるまでもなく、日本企業で国際競争力を有している企業は終身雇用制を頑なに維持しています。

本書の第I部では企業というものを、資本主義の基本原則に則り「差異創出により利潤を獲得し、差異が消滅すると新たな差異を創出していくダイナミックな存在」と捉えて検討していきます。そしていわゆる欧米企業を、市場に差異創出の源泉を求め、それに基づき計画をたて、その計画に対して合理的に資産を集め計画の遂行を図る「戦略合理」の経営スタイルであること、日本企業を企業内部に企業特異な知的資本を蓄積することで差異とその消費手段を創出する「資産合理」の経営スタイルであることを明らかにしていきます。多くの日本企業が有する「資産合理の経営スタイル」は「戦略合理的経営スタイル」と全く異なるメカニズムで、市場に次々と革新をもたらし、また対応す

ることができるものであることを論じました。その上で「戦略合理」「資産合理」それぞれのメカニズムに適した組織化および人と組織の関係を示しています。

第II部では多くの日本企業の経営スタイルである資産合理に適した持続的競争優位を築くための知的資本マネジメントの方法論を具体例と共に詳述しています。これは著者の一人であるヨーラン・ルース氏の知的資本コンサルティング・メソッドを基に私がかつて所属していたリクルート・ワークス研究所で日本版を開発し、同社のHCソリューショングループで実際にサービスが提供されているものです。

日本企業がその強みを活かしながら、流行に惑わされることなく、より良い経営の在り方を追求していくことに本書が少しでも貢献できればと考えています。



内田恭彦 准教授 経済学部

TEL: 083-933-5564 E-mail: y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

原稿をお寄せ下さい

広報誌は、学内だけでなく、山口県内外の高校以上の教育機関、地方自治体および主として、中国・四国地区の企業等学外の約700の機関に配布しています。

ア. 「トピックス」「国際交流」「山口大学の将来についての提言」など

大学の新規の出来事・特徴的な取組、学生・職員の活躍などのニュースをお知らせください。また、昨今、大学の将来についての関心が大変高くなっています。そこで、山口大学の将来のあるべき姿について、学内外から原稿をいただければ幸いです。建設的なご意見を期待します。

イ. 「私の授業」「私の研究」

「私の授業」「私の研究」では、日頃なさっている授業や研究を、高校生にも分かりやすいように、述べていただければと存じます。(7月号はお休みしております。)

ウ. 「教員から寄せられた著書」

大学教員の著書を紹介していますので、本を執筆されましたらお知らせください。

エ. 催し物

公開講座、学会、研究会等の開催計画がありましたら、日時、場所、名称、責任者氏名、所属、電話番号などをお知らせください。

※写真について

著作権・肖像権等に注意してください。画像は電子データの場合解像度350dp以上、縦横1,000pixel以上、写真はデジタルカメラで撮影した場合は150万画素以上でお願いします。また、本文中に画像を貼り付ける場合は元画像データも一緒に送付してください。

原稿には締切期限を設けませんので、適宜、下記までE-mailまたはフロッピー等に入れてお送りください(トピックス・催し物については、発行月の1カ月前までにお寄せください)。その他、種々の問い合わせも下記までお寄せください。

広報誌YU Informationは5月、7月、11月、3月の年4回の発行です。

【お問い合わせ先】

〒753-8511

山口市吉田1677-1

国立大学法人山口大学総合企画部
広報チーム

☎083-933-5007 FAX083-933-5013

E-mail: sh011@yamaguchi-u.ac.jp



個人情報取り扱いについて

個人情報管理におきましては、「個人情報保護法」を遵守し、御投稿いただいた方の個人情報を安全に取り扱い、十分な配慮と適切な処置を講じて対応いたします。

キャンパス風景



山口大学ブランド日本酒の酒米を農学部附属農場のたんぼで育てています。

詳しいことはブログ

「山口大学ブランド日本酒製造のキセキ」

をご覧ください。

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/blog/>



表紙説明



山口大学オープンキャンパス2008

no title ~可能性の発見~

オープンキャンパスが
高校生の卒業後の進路を考える
きっかけとなる場になったらいいな。
それぞれの生徒が将来を描くことに
繋がりますように…。

今回表紙を飾ってくれたのは、オープンキャンパスの学生スタッフの皆さんです!!

訂正とお詫び YU Information 87号

P 11 磯野恭子さんの文中 8行、18行目の 財路 とあるのは、
財政 の誤りです。

P 20 山口大学沿革の中の 附属光小学校 とあるのは 附属光小学校
附属山口小学校 の誤りです。

訂正してお詫びします。

編集後記

恒例の山口大学オープンキャンパスが、今年も8月5日、6日に開催されます。本誌はオープンキャンパス特集号として作成しました。大学を見学に来られる高校生、既卒者、教員、保護者の皆さんに、山口大学をよりよく知っていただくために、知って得する情報や各学部教員、学生による生の声を載せています。また、留学制度や学生生活の紹介もしています。オープンキャンパスに来られない人にも、山口大学の雰囲気が伝わればよいと思って作りました。

山口大学を受験しようとする皆さんも迷っている人も、是非、この小誌を参考にして山口大学のよいところをたくさん見つけていただきたいと思います。そして来年の春には私たちと一緒に山口大学で勉強をしましょう。

◎山口大学Webページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報誌第八十八号

平成二十年七月三十一日発行

編集発行 山口大学広報委員会

(総合企画部広報チーム)

住所 山口市吉田一六七七一

電話 (〇八三) 九三三一五〇〇七

FAX (〇八三) 九三三一五〇一三

E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

(本紙に関するご意見・ご感想をお寄せください)

印刷 ㈱マルニ

広報委員会委員

村田 秀一 (総務企画担当副学長)

福田 隆眞 (教育学部 総務企画担当副学長補佐)

坪郷 英彦 (人文学部)

菊屋 吉生 (教育学部)

成富 敬 (経済学部)

宮田雄一郎 (理学部)

坂井田 功 (医学部)

浜本 義彦 (工学部)

藤間 充 (農学部)

何 暁毅 (大学教育機構)

近久 博志 (産学公連携・イノベーション推進機構)

三池 秀敏 (大学情報機構)

長畑 実 (エクステンションセンター)

富永 倫彦 (アドミッションセンター)

中尾 淑乃 (総合企画部広報チーム)

※ 次号は11月28日発行予定です。(5月・7月・11月・3月の年4回発行予定)